

キンセイラン *Calanthe nipponica* Makino

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 4、固有性階級 3、総点 17。美しい花をつけるラン科植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 25~35cm になり、基部はふくらんで球状の偽球茎となり、数年分が残存して横に並ぶ。葉は茎の基部に 3~5 個つき、線状楕円形~披針状楕円形、長さ 15~25cm、幅 1.5~2.8cm、先端は鋭頭、無毛、このほか茎上に 1 個の鱗片葉がつく。花期は 6~7 月、花は茎の上部にややまばらに 3~8 個つき、淡黄緑色、苞は披針形、長さ 1.2~2cm である。がく片は広披針形、長さ 1.5~2cm、幅 4~6mm、側花弁はがく片よりやや幅が狭い。唇弁は 3 裂し、側裂片は小さく、中裂片は卵形~四角状卵形、先端は尖り、辺縁は波状、中央にとさか状のひだがある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：7 設楽東部 (天野保幸 s.n., 2009-6-9)。

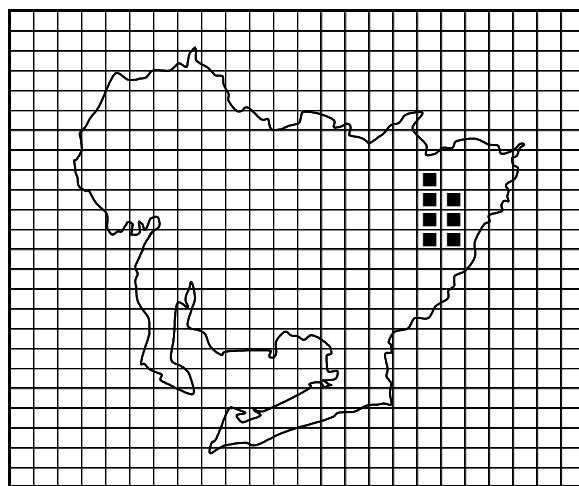
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。愛知県での生育地は、1 カ所はよく育ったスギ造林地、他の 1 カ所は二次林である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

やや離れた 2 カ所に、どちらもごく小数の株が生育している。

【保全上の留意点】

エビネ類の中ではやや小型で地味な種であるが、一方で希少種であり、園芸目的の採取で失われるリスクは大きい。直接採取されなくても、写真撮影に訪れる人が多くなれば、周辺部の踏み荒らしによる生育環境の劣化も懸念される。位置情報の公表については特に慎重な配慮が必要である。2 カ所のうち 1 カ所はインターネット上で詳細な位置が流されており、2012 年 9 月の調査では 1 株確認できただけであった。

【特記事項】

県条例に基づく指定希少野生動植物種になっている。愛知県のエビネ属としては、エビネ、ナツエビネおよび本種の他にサルメンエビネが豊根村や豊田市に生育していると言われている。今後も一層の探索が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.54, 平草本 I p.22, 平新版 p.186.